松江市総合計画・総合戦略推進会議

令和３年度第１回地方創生推進事業部会　会議録（要約）

１　日　時　　令和３年８月３日（火）１３時３０分から１５時００分まで

２　場　所　　松江市役所　西棟５階　防災センター

３　出席者　　(1)委員 10 名
田部長右衛門会長、岩田英作委員、植田祐市委員、加藤隆宏委員、
金山富美委員、塩谷夏輝委員、瀬崎輝幸委員、中澤ゆかり委員、
中村友樹委員、森保志委員
欠席者　１名
中田光俊委員

(2)事務局８名
山根政策部長、森原産業経済部長、佐目政策部次長、大谷産業経済部次長、
井原政策課長、今岡政策係長、本田主任、牧田副主任

４　次第
（１）　開会

（２）　議事　①令和３年度 地方創生推進事業部会の進め方について
②ＭＡＴＳＵＥ起業エコシステムについて
（３）　閉会

５　会議経過　別記のとおり

６　事務局　　松江市　政策部　政策企画課　電話 0852-55-5172

1　開会

【今岡政策係長】

・　松江市情報公開条例、及びそれに基づく審議会等の公開に関する要綱の規定により、すべて公開により行う。
・　会議録につきましては発言の要約の形で作成させていただく。
・　新任委員３名紹介（塩田委員、加藤委員、中田委員）。
・　設置要綱第６条に基づき、本部会の進行は推進会議会長が行うこととしている。

（田部会長よろしくお願いいたします。）

【田部会長】

（それではよろしくお願いいたします。）

（引き続き委員をやっていただく方、そして新しい方、よろしくお願いいたします。）

（それでは、進めて参ります。議事一つ目。令和３年度地方創生推進事業部会の進め方について事務局から説明をお願いします。）

2　議事

（１）令和３年度 地方創生推進事業部会の進め方について

【井原政策企画課長】

・10 月上旬に２回目の部会を予定している。

（２）MATSUE 起業エコシステムについて

【山根政策部長】

【資料】「まつえベンチャーホーム（抱夢）事業」の進め方について」により説明。

・　地方創生推進事業部会ということで、若者の人口の維持増加という最終ゴールを見据えて、「起業」に着目をして議論し、その過程では、このまつえベンチャーホームという拠点となるものが必要ではないかということが話し合われた。
・　拠点のあり方として、若い世代、要は小学生、中学生から大学生社会人に至るまで、起業を学ぶ体験の場、そして起業家マインドの醸成と、こういった教育システムというものをもう一度整理整頓して、このベンチャーホームの中で取り組んでいく必要があるのではないか。そしてそれらの若者たち、起業志す人たちが、コミュニティの場として人脈仲間づくりをしていくべきではないかといったことが部会で話し合われた。
・　実際に起業する際に、支援機関あるいは行政につなぐというビジネス化するといった出口部分についても、ベンチャーホームの機能に加えて活かしていただけないか、その議論を深めていただけないかという提案を行った。
・　出口部分をあわせて「MATSUE 起業エコシステム」ということで、今年度は基本構想の策定を目指したい。

【森原産業経済部長】

- 基本構想を立て、できれば年内にはアクションプランといったものを立てながら、来年度の予算に反映をしたい。
- 調査検討業務を民間事業者の方に一部を委託して実施する。
- 7 月から 8 月ぐらいにかけて関係機関への調査も並行して行い、10 月末には基本構想を策定したい。
- 検討会という形でご意見をいただく場も設け、7 月 8 日に第 1 回目を開催した。

【大谷センター長】

MATSUE 起業エコシステム調査事業の概要について説明。

（以降、資料に沿って説明）

- 用語の定義について
- 背景・問題意識について
- 問題解決の仮説と取組について
- MATSUE 起業エコシステム関連事業 推進方針案について
- MATSUE 起業エコシステム基本構想策定業務の全体像について
- 「MATSUE 起業エコシステム」の将来像のイメージ
- 活用サイドの人物像のイメージ
- 支援サイドの機能分類とプレーヤー案のイメージ
- エコシステムにおける育成・支援フレームワーク及び地元企業との連携

【市長動画】

※「第 1 回 MATSUE 起業エコシステム検討会議」より（令和 3 年 7 月 8 日開催）

- シリコンバレーのエコシステムについて、好循環が出来上がっている。
- 島根県における取組「スサノオ」について。
- 地元企業に入ってもらうエコシステムにしたい。
- 地元の企業と融合することによって地元に根づき、松江の産業となっていく。
- 「松江でなければならない必然性のなかで、新しい技術が事業になって、それが産業になって、大きくまわしていく、雇用も生み出す、少子高齢化にも対応していく、というモデルを作るのが、少し高い目標ではあるが、一過性のものにならず、持続可能に、この松江における、産業だけではなくて、誇りと愛着など、そういった面も含めて、生み育てていくことに繋がるのではないかという思いを持っている。」

【大谷センター長】

- 地元企業と連携し、地元に根づくことで、起業創業のシステムとして松江である必然性が高まる。

・　支援施策について経洗塾と連携を取りながら進めさせていただきたい。
・　検討会議については、1ヶ月に1回ぐらい、勉強会も兼ねた会議を予定している。

【田部会長】
（勉強会のメンバーは？）

【大谷センター長】
・　検討会議参加の支援機関あるいは金融機関、教育機関の方を対象としているが学生も含めてオープンな形でやりたいと思っている。

【田部会長】
（経洗塾の説明をお願いします。）

【松江商工会議所　吉廣様】
・　半期、6ヶ月間をワンクールとして島根経洗塾というものを行っている。
・　スタートアップの資金調達に向けた事業計画の作成を体系的に学んでもらう。
・　第四期までの参加者数は今26名で、うち2名が資金調達の準備に入っており、その2名を含めて8名が今指導を受けている。
・　収支計画を組み、その間の資金調達も含めて、事業計画を作成し、ピッチブックというプレゼンのスライドを作成、発表するという形で実施している。

【田辺会長】
（山陰合同銀行の取り組みについては？）

【森委員】
・　山陰イノベーションプログラムというものを過去やっていたが現在はコロナの関係で活動ができない。
・　今までの事業を立ち上げた方のフォローアップ等、そういった方の話を県内の学生さんにそれが展開できないか、というようなことで考えている。
・　県内の色々な課題、問題点を発見、抽出しながら、解決に向けた手伝いができないか考えている。

【田部会長】
・　取り組みによって起業した人を聞いたことがないということが一番問題。
（日本政策投資銀行で何かそういう事例を市長の話も含めてお話いただけますか。）

【加藤委員】

- 自身で事業をされている方々が学生に話すことが効果的ではないか。
- 今日明日に成果が出るものではなく、時間がかかる話だと思うが、それを愚直に地道にやり続けるしかない。

【田部会長】

- シリコンバレーの話について、アメリカと日本では税制、マインド等前提となる部分が大きく異なる。
- そういった中で、サラリーマンをやるより、ベンチャーの社長になりたいという先進的なところが醸成されないところが大きな問題。
- キャピタリストから資金を調達し、ベンチャーをやろうというのは、いってみればかなりの変人ともいえる。
- 保守的な風土を変えていく企画にしていかないといけない。

【植田委員】

- 今の状態と少しずれがあるなと感じる。
- 起業する平均年齢は 43.5 歳で、今のスケジュール感とかスキームと合わない。
- 都会地で 1 回就職をして、起業を目的として松江に帰ってくるというスタイルだと、さっきの 30 代 40 代のところだとかに当てはまる。
- 起業することを目的として就職すると吸収が早く、時間的な差にもなってくる。
- このシステムの時間軸等を考えていかないと絵にかいた餅になるのではないか。
- 大学や就職で都会地に出られた方が、数年後起業を考えられたときに、ふるさと松江で起業をしたいと思っていただけるような環境づくりが必要だと考えている。

【瀬崎委員】

- 全体の立て付けとしては起業をサポートするコミュニティが要る。
- 若い子たちの企業マインドを育てていくという部分と、ベンチャーやスタートアップを支援していく部分の両方がいる。
- 松江の環境の中で、無から有が生まれることはなかなか難しい。
- 30 代とか 40 代の松江で働いている技術をもった人材を発掘しながら、この地域の産業振興、産業育成につなげていくといったところをもうちょっと大きくしたほうがいいのではないか。
- 無から有ではなく、有から有を大きくしていく考え方の方が、リアリティがあのではないか。
- マインドを育てる部分と、スタートアップやベンチャー企業がやれる可能性がどうであるかを詰めた方が、実践的、実利的だと思う。

【田部会長】

・ 若年層に向けては、企業家等との接触を増やし、マインドを醸成するところに特化し、実際の起業に関しては、既存企業の新規事業のサポートをする中で、やる気のありそうな 30~40 代の、数人の、本当にわずかな人たちをサポートしていく、という二つに分けたほうがよいということだと思う。

（高校生で起業しなさいっていうのは無理だと思うが、学生でそういうマインドがある人たちはいるのか。その辺りのことをお話いただけますか。）

【金山委員】

・ 学生の将来への希望に対し、松江にはこういったサポートシステムがあることを伝え、会長の先ほどの言葉を借りるなら、地域における「変人」を作っていかなければいけない。
・ 出雲人は、本当は自分たちの中にものすごい誇りを持っているが、謙遜からだんだんとその中に縮こまっていく。
・ 今はオンラインであったり、様々なシステムが進んでいくので、そうしたものも用いながら学生に期待をし、働きかけなければいけないと思っている。
・ 地元の生徒や学生たちが一度外に出たときも、かつてベンチャーホームで学んだ経験から「松江はこういうふうに（近い将来、彼らが生活したいと思うように）変わりうるんだ」ということが分かれば、また帰るモチベーションに大いになると思う。
・ 近畿松江会や東京松江会など、都会でも引き続き松江と何らか繋がりがもてているというようなことも、プラン、進め方の中には入れ込んでいくべきと思う。

【田部会長】

（岩田委員どうぞ。）

【岩田委員】

・ シリコンバレーとスタンフォード大学の話があったが、自分の目の前にいる学生は松江市役所に落ちて大泣きしているのが現実。
・ 世界を変えてやろうという学生にはお目にかかったことがなく、起業して会社を作ろうということも夢の見方すらわからないと思う。
・ この会議があまり浮き足立たないようにということを懸念している。
・ 本当にこのエコシステムが実働するのかどうか、どれぐらいの数の人が毎年参加して、起業したら成功といえるのか、市役所の方ではどうお考えなのかを伺いたいと思っている。
・ 4 年生の地域文化学科 71 人のうち県内で今内定をもらっている学生が 44 人いる。
・ 44 人のうち、松江市内で就職が内定しているのは 23 人いる。

・ 大学と市との方で具体的に学生たちにどう起業のマインドを学ばせるのかというようなことを話し合う機会をぜひ設けていただければありがたいと思っている。

【田部会長】
・ 学生さんたち向けのプログラムと、新規起業のプログラムとは分けたほうがいい。
・ このエコシステムに関してはどっちを主眼に置いてやるのか、というところだと思う。

【中村委員】
・ 無から有を生むことはすごく難しいとか、安定したことを親が求めている、ということに関しては間違いないと思っている。
・ 松江で、ずっと松江におられて起業され成功された事例は、実はすごく少ないのではないかと思っている。
・ ゼロベースの方を探していくのは難しいかもしれないので、もうすでに起業家精神を持っておられる方をベンチャーホームなどで支援するのがよいのではと考えている。

【田部会長】
（第 2 創業的なことは考えてないですか。）

【中村委員】
・ 第 2 創業として、漁業に関する魚の競り権の取得といったものを今年させていただいた。
・ 関連性が高い事業だが、あまり関連がない事業に行くと初期投資がかかりすぎる。
・ 見えない部分があったので経験がある範囲で第 2 創業としている。

【田部会長】
（そのほかありますか。）

【金山委員】
・ 私たちの頭の中に、架空の安全、安定、期待というのを最初から設けていて、それを学生たちや子供たちにいつも言ってしまっている。
・ 彼らが生きていく 10 年後 20 年後には、今の当たり前がどうなっているのかはわからないので、そういったところも教育の中では教えていかなければいけない。
・ 教育と実際に起業することを分けることはいいと思うが、そのやり方の中にどこかに遊び、フレキシブルな部分を作っておくことも重要ではないかと思う。

【田部会長】

- まさにその通りじゃないかと思う。
- ＣＳＲ、ワークライフバランスといった政策と、起業して新しい事業をやっていくことは相反する。
- その大前提の俎上のなかで起業家を作っていくことは非常に難しい。
- フロンティアスピリットをどういうふうに教育していくのか、本当に第２創業に絞るか、起業したい方は経洗塾に紹介するか、わかりやすいロードマップを作っておかないと、総花的にやると大失敗する。

【瀬崎委員】

- 既にキャリアを積んで働いている、松江で働いている方たちの中で、創業精神とかベンチャー精神とか、ある意味ではその企業にとってはイノベーションに繋がるものを、しっかりとピックアップしていくということを、まず重きを置いてやっていく一方で、粛々といわゆるマインド教育はしてくべきではないか。
- 卒業した子たちがその企業で、その社会で、どんなスキル、キャリアを積んでいるかをしっかり追いかけて、教育に反映していただきたい。

【田部会長】

- 若年層に関しては、起業家の方や企業のトップと交流することでマインドを持たせ、30 代になって、自分自身の経験や人脈ができたときに起業できるような、種を植えていくようなシステムが第一段階となる。
- 第２段階としては、企業の第２創業をサポートするようなシステムが考えられる。
- 本当に起業したいという人たちに対し、経洗塾のようなところに紹介して流していくような、わかりやすい方がまずはいいのではないか。
- 大前提を壊してくのが相当大変で時間と労力がかかる。

（市側で今日のお話聞いてどうですか。）

【山根政策部長】

- 話を聞いていて、自分自身少し前のめり過ぎたのかなという気がしている。
- 昨年度まで産業経済部に８年間、そのうちの６年間産業支援センターにいて、起業創業の担当部署として未着手であることにたくさんの指摘を頂き、「しません」というのが正直な私の立場だった。
- 私自身起業したことがなく、公務員というリスクが少ないところに何十年いたという中で、起業創業というリスクがあるものに勝手に行政が前面に出てやることに対して、私の中では否定的だった。
- しかし昨年度、政策部で地方創生を見据えた起業創業というテーマをつけられたとい

うのを聞いて、行政ではない、民間、経済界、あるいは有識者の方々から出るならば、是非とも産業経済部として何かこの起業創業といった今までアンタッチャブルだったものに関わりたいという思いから、出口も含めて一旦、向かうこととした。

- 非常に難しいしハードルが高いことはわかっている。
- 今日の意見を受け、教育システムを主としながら、現実的に出口の部分として何ができるのか、ということを改めて産業経済部と話し合い、私としては 100 挑戦して 1 でもそういったチャレンジが実を結べば、これはこれとしてありではないかと思う。
- 一方、税金を使う場合には費用対効果ということがあるため、地元企業の第 2 創業、地元企業同士の交流といった部分が、ある程度その拠点の中でできればよいのではないかというぼんやりとした理想論を掲げていたのかなとも思う。
- いただいた意見は非常に参考になったので、市長とも改めて議論を深め、現実的なところや実際に実施するとなったとき、ベンチャーホームというものが要るのかどうかも含めて、今後、事務局でも検討していきたい。

【森原部長】

- 皆様方のご意見を伺うと、現実的に考えればやっぱりそうだろうな、というふうに率直に感じている。
- 私自身も起業ということを考えたことないので、それに対してお答えすることできないというのが現実。
- ロールモデルがないという話が最初にも出たが、それによって想像がつかない、次に話が繋がらないということがある。
- ロールモデルを作るためには、現実的に行く方がよいのではないか。
- そういったところも含め、もう少し冷静にこの事業をどうしていくか考える必要があると思う。
- 我々も事業をやり始めて走り出したので、皆様方のご意見を伺いながら、少しずつ、基本構想に向けて構築していきたいと思っている。

【田部会長】

（最後何かご意見ありますか。）

【中澤委員】

- 昨年の議論も踏まえ、起業創業というのが難しいことはすごく理解できた。
- 海外では育休の期間を活用しスキルアップやその間に築いた人脈を利用して、新たなビジネスに展開していくという流れを作っていると聞いている。
- 育休の期間を活かしてこの場を利用しスキルアップや人脈の構築に活用し、企業にとってもその戻ってきた人材が自分たちの会社のためになるということであれば、より

エコシステムに対しての理解とか協力も進んでいくのではないかと思うので、そういった視点も入れていただけたらありがたい。

- 起業の年齢の話の中の 30 代 40 代が多いというところでも、子育てを機に松江を選んで戻ってくる人はある程度おられますので、そこにターゲットを見つけていくのも一つかなと思う。

【塩谷委員】

- 稼ぐことというのに結構引かれたりする体験がある。
- メンバーのなかに、小学校の時からお金をどう使うかとか、お金に対する勉強を今後したい方がいる。
- 小学校のうちから遊びながらでも勉強ができて、中学校、高校とつないで大学ではそのノウハウがある状態で大学生活を送るというのは非常に大事かなと思う。
- そういった具体的な案件を入れられるとよりわかりやすいかなと思う。

【田部会長】

- 今日の話を踏まえ、行政でやる役割、そして民間、経済界や金融機関でやる役割をきちっと分けていった方がよいと思っている。
- 行政は行政の特化した役割、やり方というのがおそらくあると思う。
- 金融機関等の皆様と最終的には地元にいわゆるベンチャーキャピタル的なものがないと、地元の企業、地元の人たちに向けて補完できないと思う。
- そのリスクをどうヘッジしていくかのところで、最終的にはこのシステムの中で、そういう人を見つけて、最終的には金融機関に紹介するといったことをやっていかなければならない。
- 紹介と実際にお金をつけるところの役割を分けたほうがいいと思う。
- 包括して全てはできないので、それらを含めて、またご相談をさせていただければと思う。

【山根政策部長】

- 会長の言われたように、行政だけで進めていき、成功するとは思っていない。
- 民間の方、経済界の方との協力と役割分担ということは当初から念頭に置いている。
- 今日いただいた意見を踏まえて、産業経済部および政策部とで協議したうえで、委員の皆様方に色々なご意見いただきながら、構想を作っていきたいと思っている。

（今日はどうもありがとうございました。）